

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2015年11月)

【内政】

1日付大統領府プレスリリースによれば、フランスを訪問中のバスケス大統領は、液化天然ガス再気化事業について記者会見で概要以下のとおり発言した。

- 1 フランスと日本の合弁企業(GDF Suezと丸紅で構成されるGNLS社)は、液化天然ガス再気化事業のうちターミナル建設を請け負っていたが、同企業は事業から撤退した。
- 2 しかしながら、日本の造船会社(商船三井)は同事業で使用する船の建造を継続しており、11月に完成予定である。日本公式訪問中に同企業と協議を行う予定。
- 3 ウルグアイは現在建造中の船を使用する義務を負っていない。
- 4 政府の責任は現在のエネルギーマトリックスを分析することである。同事業の計画段階では、ウルグアイにおけるガス及び石油資源の存在は実証されていなかった。
- 5 過去10年間の投資により、現在ウルグアイのエネルギー生産能力は向上し、火力発電所の稼働を必要とせず、また天候に依存することもなくなった。
- 6 同事業について日本企業側と協議するにあたり、現在の必要性に見合った船の規模を検討するために多くの資料を用意した。(アストリ経済財務相)日本企業が建造している船のガス生産能力は1千万立方メートルであるが、他方でウルグアイのガス消費量は年間30万立方メートルに過ぎない。

【外交】

1 バスケス大統領の訪日

3～7日、バスケス大統領が外務省実務訪問賓客として訪日した(ニン・ノボア外相、アストリ経済財務相他同行)。滞在中、在日ウルグアイ人との懇談、日本ウルグアイ協会主催昼食会、上智大学での講演会、日ウルグアイ友好議連主催朝食会、ビジネスセミナー「日本ーウルグアイの橋を建設する」、天皇陛下御会見、日・ウルグアイ首脳会談、共同記者会見、共同宣言発出、及び安倍総理主催夕食会に出席した。

2 バスケス大統領外遊に関するニン・ノボア外相及びアストリ経済財務相の記者会見発言

9日、バスケス大統領が外遊を終えて帰国し、同行したニン・ノボア外相及びアストリ経済財務相が記者会見を行った。両大臣の発言概要は次のとおり。

(1)ニン・ノボア外相

ア 今回の訪仏及び訪日では、仏との間で計8つの協定に署名し、計3つのプレゼンテーションを行った。また、ウルグアイ企業の代表団は仏及び日本企業と重要な意見交換を行うことができた。今回の外遊は全体として大きな成功であった。

イ 今回の訪日では、ウルグアイ産生鮮牛肉の輸入解禁の可能性に道を開くべく、日本側に最後の一押しをしたいと考えていた。日本市場は極めて要求水準が高く、ウ

ルグアイにとり残る唯一の重要な市場であり、巨大な利益をもたらさう。人口当たりの牛の頭数は、日本では40人当たり1頭であるのに対し、ウルグアイでは1人当たり4頭である。日本はオーストラリアから牛肉を輸入しているが、現行の関税38%は、TPPの署名・発効により9%となる。豪のような他のプレーヤーの動きが我々にどのような影響を与えるかを注視しつつ、輸入解禁へ向けやるべきことが沢山ある。

- ウ ウルグアイは、メルコスールを通じて日本と自由貿易協定を結ぶ可能性がある。更なる海外市場への参入が望まれており、あらゆる可能性が検討されている。
- エ テロについて、ウルグアイ政府の立場を明確にしておきたい。第一に、テロを明確に非難する。第二に、国際法の枠内で行動する。第三に、ISIL が関わる紛争地域に軍を派遣し干渉することはない。

(2) アストリ経済財務相

- ア 訪仏、訪日ともに非常に建設的な外遊となった。
- イ ウルグアイが OECD 開発センターへのオブザーバー国となったことで、OECD 加盟により近づいた。
- ウ 仏企業からは、対ウルグアイ投資への関心が寄せられた。
- エ 日本との通商関係はいまだ脆弱である。我々は日本へ生鮮牛肉を輸出したいと切望しており、日本側の輸入解禁へ向けた取り組みは既に非常な進展を見せている。日本側の市場開放決定を期待する。
- オ 日本ではJBIC関係者と会談した。ウルグアイは2007年と2012年の2度、JBICの保証付で円建て債券「サムライ債」を発行している。ウルグアイの官民合同インフラ整備計画への融資を呼びかけたい。
- カ バスケス大統領は、メルコスールが困難を抱えていることを認め、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(CEPAL)が以前造り出した「開かれた地域主義」の言葉を借りて、域外との通商協定を提唱している。

3 センディック副大統領の第4回ラテンアメリカ・アラブ諸国サミット出席

10～11日、センディック副大統領がサウジアラビア・リヤドで開催された第4回ラテンアメリカ・アラブ諸国サミットに出席し、社会的包摂を伴う持続的発展、UNASURと他の地域ブロックとの関係強化、南南協力、南米・アラブ2地域間の通商、投資及び観光促進、文化・スポーツ交流、紛争解決等について演説した。

4 アルゼンチン大統領選挙結果に関するバスケス大統領の反応

23日、バスケス大統領は、ドゥラスノ県における公開閣議での演説の中でアルゼンチン大統領選挙決選投票に触れ、当選したマクリ次期大統領に電話し、ウルグアイ大統領及びウルグアイ国民の名において祝意を表したと述べた。同日付大統領府プレスリリースに

よればバスケス大統領の演説要旨は次のとおり。バスケス大統領は12月9日からアルゼンチンを訪問し、翌10日の就任式に出席する予定。

- (1) マクリ次期大統領に対し、今回の選挙は同氏の完全な勝利であり、また、素晴らしい選挙実施体制において市民としての成熟及び民主主義の尊重を見せたアルゼンチン国民の勝利である、と二重の意味で祝意を述べた。
- (2) アルゼンチンにおける完全に正常な選挙は、問題に満ちた世界に向け肯定的なイメージを示した。我々はこのことをアルゼンチンの隣人及びラテンアメリカの住民として誇りに思うべきである。聴衆の皆様におかれては、同次期大統領及びアルゼンチン国民へ向けた大きな拍手をお願いしたい。
- (3) 同次期大統領は、「ウルグアイ国民に敬意と親愛の念を抱いている。両国間の問題を早期に解決する手段を模索したい。長年にわたる両国の不一致を解決すべく全力で取り組む所存である。」と電話で述べた。
- (4) シオリ候補とも電話で話したかったが繋がらなかった。自分は選挙キャンペーンの舞台裏における取り組み、努力をよく知っている。同候補陣営の素晴らしい選挙キャンペーンを祝福し、同候補に大きな抱擁の挨拶を送る。

【社会】

1 短時間誘拐の連続発生

11日夜、モンテビデオ(ポシートス地区)において、車で帰宅した母娘が銃を持った2人組の男に襲われ、車ごと誘拐された。犯人は母娘にATMから現金を引き出させようと数カ所を試みるがいずれも失敗したため、娘の婚約者に電話をし、身代金15万ペソを要求した。交渉の結果、10万ペソを支払うことで合意し、母娘はセロ地区で解放された。

16日午後9時ごろ、セントロ地区において、44歳の男性が銃を持った2人組の男に襲われ、男性の運転する車で市内を連れ回された。犯人等は身代金を要求したが支払われず、男性はラ・テハ地区で無事に解放された。

18日午前、セロ地区で上記2件の誘拐事件で容疑者5名を拘束し、うち2名が犯行を認めている。

2 ウルグアイ領事による偽造査証発給事件

検察は領事としてスペインに駐在していた男に対して、96件の偽造査証発給、買収、人身売買などの罪で起訴(執行猶予なし)した。裁判所は同人に対して、人身売買、中国人に対する偽造査証発給について執行猶予付き有罪判決を言い渡した。男は前科がないことから、120日間の夜間勾留及び、同期間に週3回各3時間の奉仕活動を内容とする執行猶予判決が言い渡された。

(了)